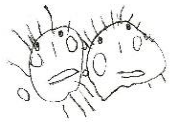


# いっぽ だより



H29年度 No.9

はじめのいっぽ弥生  
平成30年1月19日

2018年を迎え、最初のお便りとなりました。皆様、今年もどうぞよろしく願います。いっぽでは二人羽織で初笑いをしたり、あっちこっち紙芝居のメンバーの、おとみさんが「南京玉すだれ」を披露！ワクワクいっばいで、新年を祝いました。



いっぽでは、各自で「冬休みの目標」を立てました。

Aさんは「小さい子の面倒をみたい」、Bさんは「朝、ちゃんと起きていっぽに毎日来る、夜はちゃんと寝る」という目標を掲げ、1月16日現在、100%実現中です！それぞれが目標に向けて活動し、達成感を得ながら充実した日々を送っています。

さあ、来週から本格的に三学期がスタートします。春には進級・進学…楽しみがいっばい！“いっぽ、いっぽ”前に進んでいこうね。



## ○今後の予定○

1月19日(金)	冬まつり(お楽しみ会)
1月24日(水)	親子でいっぽ 10:00~音楽遊び
2月17日(土)	フロアカーリング
2月20日(火)	あっちこっち紙芝居
2月24日(土)	みそ造り講習会

※1月20日~個人面談期間となります。

随時、各ご家庭に面談のご連絡をいたしますので、ご協力よろしくお願いたします。

## ○もちつき大会、無事終了！○

12月16日（土）、朝から雪がちらつく中、いっぽ広場でもちつき大会を開催しました。

二台並んだ薪ストーブには火がパチパチと燃え、大きな鍋にはたっぷりのお湯が沸いています。準備万端！と、言いたいところですが…雪がやまない！さあ困った。どうしたらみんなが雪を気にせずに、楽しく参加できるだろうか…と頭をひねりながらふと外を見ると、いつのまにか固定遊具を利用してブルーシートの屋根が作られています。あるものを工夫して知恵を絞り、参加者へ配慮する…。わあ～すごい！男性スタッフの機転と頼もしさを、改めて実感する出来事でした。



当日は、行政関係者や小学校の先生たち、近所のおばあちゃんやいっぽの理事さん、スタッフの友人、そして、いっぽの子どもたちとそのお父さん、お母さん…。総勢100人近くの方々が集いました。もちをつくる人、ついたもちを丸める人はもちろん、裏方として働く人たち一人ひとりの協力があったからこそ、無事もちつき大会を終えることが出来ました。本当に、ありがとうございました。



子どもたちの「そーれ、よいしょ！」のかけ声に元気をもらいながら、大人の力を結集してつきあげた、いっぽのおもち。バラバラだったもち米が、みんなの協力で一つのかたまりになる。おもちつきは、日本の先人たちの知恵が詰まった、素晴らしい文化だと再確認！はじめのいっぽの伝統行事として、これからも続けていきたいと、しみじみ感じています。



## ◎冬休みの思い出◎

「小さい子の面倒を見る」

「お手伝いをする」

「規則正しい生活をする」

…などなど、それぞれに目標を持って過ごしてきた冬休みも、あと数日で終わろうとしていきます。



本当に様々な経験をしました。クリスマスには本物のサンタさんが来てびっくり！年の瀬と新年には、異年齢交流で手をつなぎながら南豪神社へお参りし、旧年中のお礼や、新年に向けた安全祈願などをしてきました。帰りには散策を楽しみつつ、堤防沿いの雪原で思いきり雪遊びも楽しみました。



イグルー（雪の家）作り、坂すべり、ソリリレーなど冬ならではの遊びの他、トーンチャイムというハンドベルのように振って音を出す楽器にも挑戦しました。



人形劇「みみず座」で大笑いし、オマチマンコンサートでは歌って踊って汗をかき、パステル画研修では、講師の先生の話をしっかり聞いて内容を理解し、ステキな作品が完成！子どもたちがお礼の折り紙ペンダントをプレゼントすると、先生の目には感激の涙が。素直で優しい子どもたちの思いやりが伝わったと実感するひと時でした。



その他、紙面に描ききれないほどの経験を積んだいっぱいのお友だちでした。

## ◎こぼれ話◎

朝、朝食の支度をしながらラジオニュースを聞いていると、北海道の鷹栖町出身の冒険家、荻田泰永（おぎたやすなが）さんが、1月6日に日本人初の「南極点無補給単独徒歩到達」を達成したというニュースが流れてきました。

ソリー台に食料などの必要物資を乗せ、自分の力だけで1126kmの道のりを歩ききり、目的地である「南極点」にたどり着いたというのです。

その荻田さんのコメントが、心に響きました。

**「マニュアル本などは何もないので、そのとき、その場で必要なことは何かを考え、解消しながら“いっぼいっぼ”歩いていたら、南極点にたどりつけました」**

はじめのいっぼの理念と同じだ！

焦らなくていい。ゆっくり、じっくり、ていねいに、いっぼいっぼ前へ進んでいけば、いつの間にか、いろいろなことができるようになって、いろいろな夢がかなう。

これからも、この考えを大切にしていこうと、決意を新たにしました。

北極冒険家 荻田 泰永（オフィシャルホームページより）

カナダ北極圏やグリーンランド、北極海を中心に主に単独徒歩による冒険行を実施。2000年より2017年までの18年間に15回の北極行を経験し、北極圏各地を9000km以上移動してきた。世界有数の北極冒険キャリアを持ち、国内外のメディアからも注目される。日本唯一の「北極冒険家」

